

2025/02/04

～本庄早稲田で越境学習～

第3回「本庄早稲田会議」

開催レポート

About

■ 開催日時

2025年2月4日（火） 午後3時～5時

■ 開催場所

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター
レクチャールーム2および技術交流コーナー

■ 参加者

38名（33団体）



実施概要

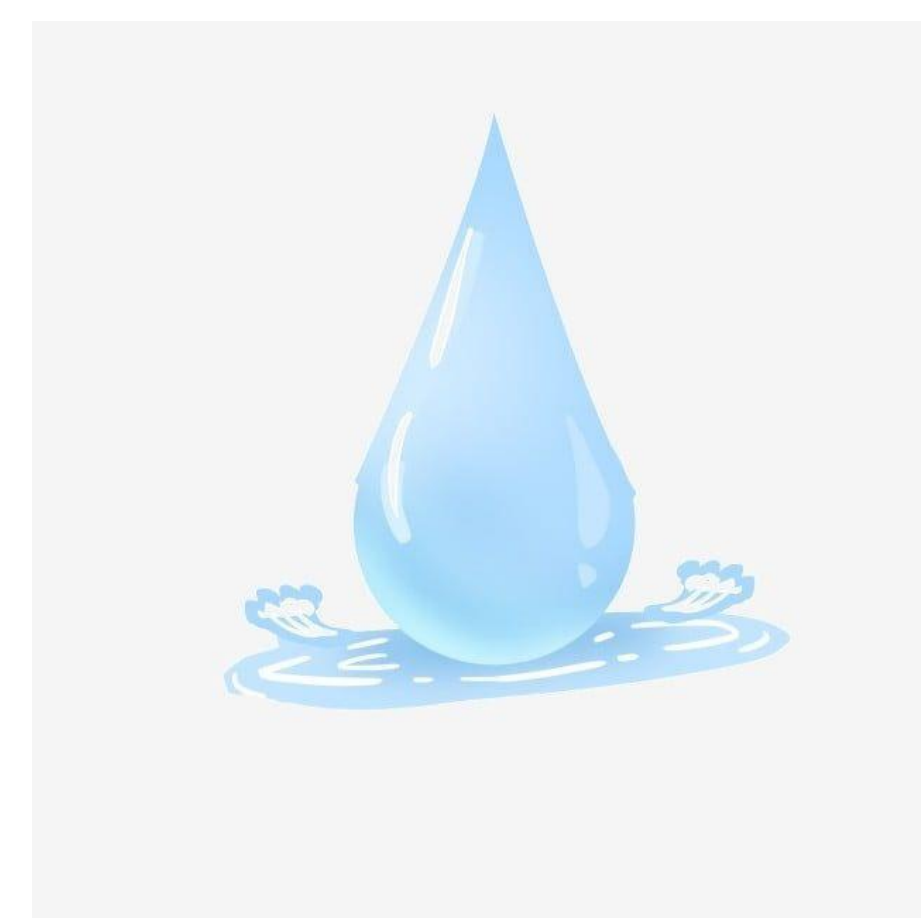
本庄市、本庄早稲田の杜地域では、様々な企業や団体がそれぞれの目標に向かって活動している。この「奇跡」に感謝しながら、業種を超えた交流や多様性に触れる学びの場を創出し、地域企業・団体のネットワーク形成や新たな産業・プロジェクトの発展を目指して越境学習会「本庄早稲田会議」を開催する。

スケジュール

15:00	挨拶・趣旨説明	司会 財団 田中・本庄市 松橋様 挨拶 財団 今井
15:10	株式会社中央園芸様の話題提供	株式会社中央園芸代表取締役 押田 大助様
15:30	株式会社ナック・クリクラビジネスカンパニー様の話題提供	株式会社ナック・クリクラビジネスカンパニー製造部製造室マネージャー 川田 泰礼様
15:50	本庄銀座ブルワリー様の話題提供	本庄銀座ブルワリー代表 中田 翔様
16:10	グループセッション説明 休憩	
16:20	グループセッション グループ内質疑応答	1グループ 10名 2グループ 12名 3グループ 12名
16:35	各班発表	1グループ 本庄市 矢本様 2グループ オルトビオス児玉ホーム篠原様 3グループ (株)カインズ 高市様
16:50	クロージング まとめ	司会 財団 田中・本庄市 松橋様



第3回のテーマ「水環境」



テーマ策定の経緯

第3回となる今回は、とある意見交換の中で、地域の水環境の特性を伺う機会があったことを契機に、誰もがそれぞれの事業や日々の営みにおいて恩恵を受ける「水」をテーマとした。企画過程で主旨に賛同し、了承を得た方々には、以下のテーマで話題を提供していただく:

株式会社中央園芸代表取締役 押田 大助様

かつての建物と周辺環境をみると地上と地下がつながり、空気と水の循環が保たれていた。本庄早稲田駅南口前でシンボルとして親しまれていた、二本松が枯れてしまった経緯、救済のために行った処置と現在の様子など、具体例を通して、空気と水の通り道の重要性を発表。

株式会社ナック・クリクラ ビジネスカンパニー製造部製造室 マネージャー 川田 泰礼様

2002年に宅配水事業のリーディングカンパニーとして事業を展開する。東日本大震災を契機に事業を拡大、現在では約500拠点の配送ネットワークで家庭やオフィスに「安心・安全」な水を配送している。2012年本庄市児玉町児玉に自社本庄工場とミュージアムを新設し、世界各国のミネラルウォーターやウォーターサーバーを展示している。本庄市と協定を結んだ災害備蓄についても紹介。

本庄銀座ブルワリー代表 中田 翔様

2022年に本庄市銀座にクラフトビール専門店を開業。ビール造りに使用している本庄市の水を、醸造の観点から分析し、その特性を活かした十数種のオリジナルクラフトビールを提供。本庄市の水は硬度が高く飲みごたえとキレが特徴という。世界のビールと水の特性も例に挙げ話題を提供。



本庄早稲田会議



1グループ

地域の水の豊かさ・保全意識の重要性・まちづくりなど。
本庄市中山道沿いの井戸の位置を表す地図をみながら、本庄市の水資源の豊かさを知る。



2グループ

災害時備蓄・水害時の対応・排水溝の雨量上限などを話題にし
ながら、インフラ整備と情報伝達
が重要なことなどを再認識する。



3グループ

鰻の雌雄・環境ホルモン・生態系保全など、水生生物の観点から、水を語る意見交換がひろがった。

3つのグループ

グループセッションで内容を深める

3名の話者提供者ごと、3グループに分かれて自由な意見交換を行う。
グループは、予めヒアリングした、「気になること」や親和性のある業種ごとに設定した。



本庄早稲田会議



次回の交流の機会を楽しみにしています！

(公財)本庄早稲田国際リサーチパークでは、産学官連携においてネットワークの拠点となる、各種事業を展開しております。
本庄早稲田会議にご参加いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。
普段交流のない他業種・他分野の方々と意見交換や学びを深める貴重な機会として、多くの参加者から高い評価をいただきました。以下にいただいたご意見を要約しました。

1. 学びと新たな視点の獲得
 - 異業種の方々との真剣な議論ができ、多様な意見や知識を得ることができた。
 - 水質や地域環境に関する話題が参考になった。
2. 交流の価値
 - 普段接点のない人々と関わる機会として意義があり、ネットワーク形成や地域づくりへの貢献を期待する声が多かった。
 - 同じ思いを共有できる仲間とつながれる点が有意義だった。
3. 改善点・要望
 - 交流時間や会議の時間をもう少し長くしてほしいという意見。
 - 講演のテーマ内容や事前連絡があるとより参加しやすいとの声。
 - 参加者をさらに増やすことで、より多くの人に機会を提供できると期待される。
4. 総評
 - 全体的に「楽しい」「学びが多い」といったポジティブな感想が多数。
 - 今後も継続的に参加したいとの声が多かった。



本庄早稲田会議



イベント参加レポート：第3回本庄早稲田会議

2025年2月4日、JR東日本・本庄早稲田駅近くの早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンターで開催された「第3回本庄早稲田会議」。約1年ぶりの開催となった今回のテーマは「水環境」ということで、「水」に関連した事業を展開する参加企業の発表後、3つの班に分かれてグループセッションが行なわれました。今回も前回に続き、越境学習から何かが生まれていく様子をレポートにまとめました。

■ 園芸、ウォーターサーバー、クラフトビールに共通するのは「水」



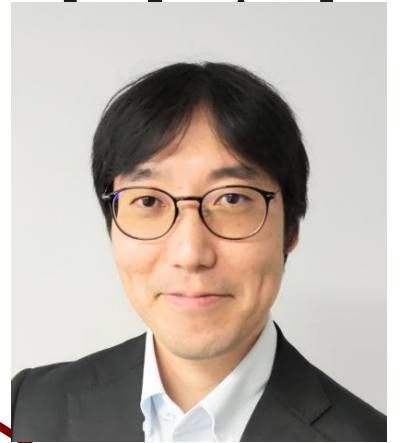
発表のトップバッターは、埼玉県寄居町生まれの株式会社中央園芸代表取締役社長の押田大助さん。インターネットの検索エンジンに「本庄宿」「利根川」と入れて検索すると、宿場町の発展に利根川が大きく寄与したという記述が散見されます。実際、押田さんが会場で投影した本庄の市街地周辺の地図からは、利根川、荒川だけでなく、それらの支流を含む多くの水脈が集まっていることが読み取れました。

しかし、豊富な水資源を有する地域にもかかわらず、大久保山周辺の赤松が枯れていることに気づいた押田さん。原因の1つは水脈の停滞にあるのではないかと考え、2023年に一般財団法人杜の財団代表理事の矢野智徳さんからの助言を得ながら、赤松の樹勢回復に挑戦。今後も、赤松を中心とした寄せ植えの実現を模索するなど、水脈と園芸を掛け合わせた活動を予定しているとのこと。

Report
1/3

編集者/ライター

池口 祥司氏



池口 祥司氏(いけぐち しょうじ)
1984年、山口県生まれ。早稲田大学法学部卒。2008年、株式会社PHP研究所入所。第一普及本部東京普及一部(書店営業)、企画部、特販普及部を経て、ビジネス出版部にて書籍の編集業務に従事。現在は、2018年に参画した天狼院書店の「取材ライティング・ゼミ」講師の他、フリーランスの編集・ライターとして書籍、雑誌、企業会報誌、ウェブメディアの編集・執筆に携わる。担当した書籍に『経営者になるためのノート』(柳井正著)、『大人はもっと遊びなさい』(成毛眞著、以上PHP研究所)などがある。

本庄早稲田会議

次の発表者は、2000年代に宅配水ビジネスをスタートさせた株式会社ナッククリクラ本庄工場製造部製造室マネージャーの川田泰礼さん。当時、一般家庭向けのウォーターサーバーはいまほどは普及していませんでしたが、全国的な水不足や東日本大震災等の災害の影響もあり、ローリングストックの認知向上や安心・安全な水への希求が高まった結果、宅配水のマーケットも大きく伸長していったとのこと。

発表を聞いて驚いたのは、クリクラの水は「天然水」ではないという点です。気候や天候に水質が左右される天然水では一律の品質を維持するのは難しく、クリクラでは水道水を原水として、RO膜によってろ過することで不純物を取り除き、56項目の水質安全基準を満たした水を提供しているそうです。本庄工場には「クリクラミュージアム」が併設されていますので、ご興味のある方は見学してみてもはいかがでしょうか。



3番目は、本庄銀座ブルワリー代表兼醸造責任者の中田翔さん。ご実家は明治時代から中山道沿いで商いを続けてきた建具屋さんですが、中田さんはオーストラリアでワーキングホリデー後、複数の業界でビジネス経験を積み、2022年、本庄でクラフトビールの醸造所をスタート。飲食スペースの併設や全国への販売を通してコミュニティを醸成し、本庄のセカンドタウン化を目指して活動しています。

クラフトビールにとって「水」は欠かせない要素であり、カルシウム、マグネシウム、ナトリウム、硫酸イオン、塩化物イオン等の割合によって味に変化が生まれるとのこと。ちなみに、本庄の水は硬水で、ドイツのミュンヘンのビール、ロンドンのエールビールなども硬水でつくられているそうです。

■ グループセッションがつないだ「過去」と「未来」

押田さん、川田さん、中田さんの発表のあとは、3班に分かれてのグループセッション。私はセッションには参加せず、それぞれの班がどんな話をしているのか、会場内をうろうろしながら聞き耳を立てておりました。

押田さんを中心に集まった1班では、水と緑を含めた「まちづくり」についての議論が展開。川田さんが加わった2班は、本庄市の危機管理課の方を交えて、水害時の対応等について情報共有が行なわれていました。そして、中田さんの3班からは、海水でのうなぎの養殖、魚のメス化等、専門的な話題も聞こえてきました。

全体を通して私が「本庄の地域性や歴史」と「参加者の方々の知見」がつながったと感じたのは、1班のグループセッション中、市議会議員の山田康博さんが、大正時代の「井戸マップ」を紹介した瞬間です。そこには本庄の街に点在する無数の井戸がプロットされていました。そのマップは、本庄地域が水資源に恵まれているという押田さんの発表の裏付けでもあり、2班が議論していた災害という文脈でいえば、断水発生時の備えにもなります。実は前半の発表の際、中田さんは「堀を復活させたい」と語っていましたが、水にまつわる人工物である堀や井戸は、本庄の歴史と未来をつなぐ接点になりうるアイテムだと感じた次第です。

会の終了後は、会場のあちこちで名刺交換が行なわれ、私も中田さんにお声がけして名刺交換をしました。この記事を書き上げたら、本庄銀座ブルワリーのオンラインショップを覗いて、本庄の硬水を使ったビールの味に思いを馳せてみたいと思います。

池口祥司（編集者・ライター）



ご参加

33団体名(50音順)

本庄早稲田会議

MKR(株)
エムケー工業株式会社
オルトビオス児玉ホーム
株式会社カインズ
サイトウ経営企画室
篠田特許事務所
JA埼玉ひびきの
JR東日本旅客鉄道(株)高崎支社 熊谷統括センター
StartUP!!studio
ソフィオンバイオサイエンス株式会社
株式会社 中央園芸
株式会社ナック/クリクラビジネスカンパニー
日生工業株式会社
日本釣振興会埼玉県支部 マルキュー(株)
平沼水産 株式会社
フリーランス(編集)
本庄パン処麦と豆
本庄銀座ブルワリー
本庄市企画課
本庄市危機管理課
本庄市議会
本庄市広報課
本庄市都市整備部市街地整備室
本庄市文化財保護課
本氣プロジェクト
真下建設株式会社
みどり園
株式会社 モテギ洋蘭園
山下正義技術士事務所
流浸工業株式会社
早稲田大学本庄高等学院
早稲田大学本庄プロジェクト推進室
公益財団法人本庄早稲田国際リサーチパーク